

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 26年 06月 24日			
所属学部・研究科	総合科学部 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	ユヴァスキュラ大学 (国名: フィンランド)			
所属学部・学科等名	Faculty of Mathematics and Science			
在籍身分	Exchange non-degree			
留学期間	平成 25年 08月 17日 ~ 平成 26年 05月 31日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: 学生用滞在許可証			
	ビザ申請先: フィンランド大使館			
	取得方法, 提出書類: フィンランド大使館にて手続き。 事前にオンラインで情報入力と必要書類のデータ添付をして、大使館にて持参した書類コピーの確認と指紋採取を行いました。			
	手続きに要した日数: 約二週間			
その他必要な事前手続き	大学よりメールにて下宿手続きの連絡が来ます。敷金なども出国前に支払います。			
出国年月日	平成 25年 8月 17日			
経路	広島~大阪~ヘルシンキ~ユヴァスキュラ			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	学期始めの一週間程がオリエンテーション期間となっており、生活や授業についてのアドバイス講習、ピクニックやパーティーなどのイベントが多く開催されます。			
帰国年月日	平成 26年 6月 14日			
経路	ヘルシンキ~大阪~広島			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	1,700,000	円	
	内訳	渡航費	160,000	円
		保険料	280,000	円
		教科書代(学費)	10,000	円
		宿舍費	320,000	円
		食費	200,000	円
		その他 (旅行費)	600,000	円
(費)		円		
(費)		円		
3. 授業について				
2013年 秋学期	09月 01日 ~	12月 20日		

2014年 春学期	01月 02日 ~ 05月 31日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	履修から授業における課題やレポート提出のほとんどをオンラインで行います。担当教員とのやり取りにも頻繁にメールを使います。留学生といっても学部、学年問わず自由に好きな授業を履修することができます。
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	個人的に、秋学期開始前の8月に実施されるサマーコースへの参加を強くお勧めします。英語・フィンランド語の2つの語学コースが開講されており、それぞれ1~3週間毎日授業が行われるので本格的な授業に向けての準備や友達作りに最適です。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 m ² 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (2人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (無料のランドリー・サウナ)
住居費	1ヶ月当たり 213€ (現地通貨) 約 30,000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	ベランダを開放したままにしているとリスが入ってくるので注意
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	フィンランドでは医療費は無料なのですが、留学生は外国人扱いとして後に書面で請求が来ます。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	水道水は質がかなりよく、どこからでも飲み水を汲めます。 冬季には日照期間が極端に短くなり、個人によっては気分の落ち込みや体調にも影響が出てくるので積極的に外へ出たり、ビタミン剤を取ったりすることをお勧めします。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
ありません。治安は日本と同等かそれ以上に良いです。週末によく街で酔っぱらった地元民に話しかけられることはあっても、彼らは気分を良くしているだけなので危険ではありませんでした。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 年 月 (当初の卒業予定年月 平成 年 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等		
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫		
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		

学習の概要に関するレポート

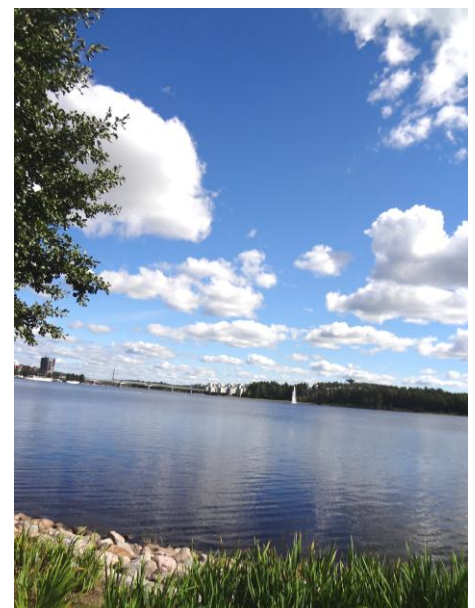
まず、ユヴァスキュラ大学では留学生に対する履修制限が殆ど無く、自由に履修ができました。英語のレベルによるクラス分けや必須授業もなく、自らの学習到達度、興味に応じて自主的に学習計画を立てることが出来ます。在籍している学部外でも、興味があれば履修が可能です。私の場合サイエンス系の学部で在籍していたのですが、自らの分野に関係した英語の講義が少なく、多くの授業に登録できないことに焦りました。しかし、その分社会学部や教育学部、言語学部など他学部での新しい分野の授業に挑戦できました。

日本の大学と大きく違うのは、時間割の仕組みです。一つの授業について今週は月・木曜日の午後から、一週休んで翌々週の火曜日の朝から・・・という風に不規則に開講されることがよくあるので毎週時間割をチェックして、他の授業との兼ね合いも考えなければなりません。

また、履修登録や教職員とのコンタクト、課題提出など多くの作業がインターネット上で行われます。「もみじ」のような学生用ウェブページが完備されており、講義で使用されるパワーポイントスライドの多くは各自で保存することが出来ました。

授業の種類も様々で、フィンランド人の生徒と共に専門的な講義を受けるものや、留学生と現地学生半々でお互いの意見や経験を交換し合うもの、留学生向けに開かれたフィンランドに焦点を絞ったもの等、それぞれの授業で新しいクラスメイトとの出会いがありとても有意義でした。留学生向けの授業に関しては、履修期間が始まってすぐに定員がいっぱいになり、順番待ちリスト入りになってしまう事があるので早めに確認することをお勧めします。どの授業にも共通して言えるのは、自らの意見を自分の言葉にして述べる事が求められるという事です。分野関わらず、ディベート・プレゼンテーション・グループワーク等の課題が必ず課せられていました。むしろ講義を聞くだけの授業はありませんでしたし、講義中の自発的な質問や意見は常に歓迎されていました。

個人的におすすめなのは、スポーツの授業です。ユヴァスキュラ大学にはスポーツ科学部があり、そこで開かれる様々なスポーツ科目が他学部からの初心者でも履修出来ます。特にスキーやスケートといったウィンタースポーツはフィンランドならではのすし、うまく滑れるようになると近所の湖などへも遊びに行けるのでいいのではないのでしょうか。フェンシング等の珍しい科目もあったので、新しい趣味を始めるいい機会にもなると思います。私は数か月にわたってクラシックバレエを受講しました。課目によって無料のもの、有料のものがあるので要注意です（大体30€だったと思います。）



生活の概要に関するレポート

・気候について

亜寒帯に位置するので、八月でも秋服を着るほどの涼しさで過ごしやすかったです。また、フィンランドの夏は短く、私が滞在していた年には九月末に初雪が降りました。そこからしばらく雪が降らず、長い秋が始まったのですが個人的には一年の中でこの時期が一番しんどい季節でした。紅葉が色づいたと思えばすぐに葉が落ち、日照時間がどんどん短くなっていきます。朝の10時過ぎに日が昇り、15時には沈んでしまうのです。「日が出ている」と言っても毎日雲に覆われていたのでどんよりとした日が続きました。しばらく日の光を浴びていないと気持ちが落ち込みがちになったり、体のだるさや頭痛を感じたりするようになるので、私は授業終わりでも図書館へ行ったり友達やフラットメイトと話す時間を持って一人にならないように気を付けたり、フィンランド人たちのアドバイスに従ってカルシウムを多く含む牛乳を飲んだり、ビタミン剤を摂取したりと対策を取りました。彼らは「雪が本格的に降り始めるまでの我慢だ」といっていましたが、実際に雪が降ってしまえば雲も減り、地面の白い雪が日の光を反射して雰囲気もぐっと明るくなったので自然と体調も気分も回復していきました。

・下宿生活について

下宿生活はフラットメイトや友人達が常に近くにいたので寂しくなることはありませんでした。下宿先は一人または二人のフラットメイトとシェアするケースが殆どです。それぞれの個室を持った上でキッチン・バスルームをシェアするのですが、共に生活をしていくことによってクラスメイトとは違う家族のような関係を築けます。もちろん、フラットメイト間でトラブルが起こりこれ以上の共同生活は不可能と判断する場合には移動希望を出すことも可能です。また、留学生が多く生活するアパートビルが徒歩数分圏内に密集しているため、友人同士の行き来がしやすかったのも嬉しかったです。ディナー会が開催され、近所に住む各々が自分の取り皿を持って主催者のフラットに集合、なんて事も頻繁にありました。更にいくつかのビルはサウナを備えており、曜日ごとの男性用・女性用の時間割に従って無料で利用できました。一月あたり約1000円の追加料金で毎週一時間の貸し切りを予約することも可能です。

・ファミリープログラム

大学は留学生に向けたイベントを多く企画してくれますが、私が一番参加してよかったと思うのは「Friendship-family program」です。フィンランドの文化や日常生活に触れたい学生と、国際交流に積極的なフィンランド人家族をマッチングしてくれるのですが、大学が事前に両者へ希望・タブー項目の提出をさせた上で紹介してくれるので安心です。紹介後は、当事者同士で連絡を取り合い、交流内容や予定を決めていきます。私はここで出会ったファミリーとは毎月2回ほどの頻度で会い、一緒に料理をしたり、博物館に連れていってもらったりしました。クリスマスにはおうちに数日滞在して家の飾りつけから教会でのミサ、サンタクロースファミリーに扮して近所の子供たちを訪問するイベントまで、フィンランドでのクリスマスに触れた素敵な時間を過ごすことが出来ました。下宿生活では見ることでできないリアルなフィンランドでの生活を見ることができたのは勿論、フィンランドに自分のファミリーがいる、という安心感は約一年間生活する中でとてもありがたかったです。

